

て谷塚町の東武伊勢崎線と県道立
越谷線に挟まれた地区の道路下約
135mにわたり貯留槽を埋設し、
3000m³の雨水が貯留できる中井堀
地下貯留槽などがある。

〈昭和60年10月20日号・平成元年5月20日号・平成3年9月20日号・平成8年7月5日号〉
☑治水事業 総合治水 総合排水計
画 排水機場 松原団地

地球温暖化防止対策

今日の環境問題は、地球規模の広
がり、次世代へも影響を及ぼす深
刻な課題となっている。このため
サイクルに代表される循環型社会の
構築や温暖化対策など、地球規模
での環境問題への取り組みが求めら
れている。

市では「環境基本計画」「環境に
やさしい市内率先実行計画（エコ計
画）」に基づき環境に配慮した事業
を進めてきた。2004（平成16）年3
月には、ISO14001を認証取得し、
環境保全の推進と環境負荷の低減を
継続的に図っている。

家庭でできる温暖化対策として
は、2006（平成18）年から「草加
が家の環境宣言」エコライフを提案
し、環境フェア、出前講座などで情
報提供や啓発を行っている。

2007（平成19）年度には市民、事
業者、市の三者が省エネルギーに
取り組む「みんなで取組む省エネル
ギーのまち草加」を基本理念とする
草加市地域省エネルギービジョンを
策定した。

また、2008（平成20）年7月7日
には、地球温暖化防止の取り組みと
して市民からの発意で、市内一斉の
ライトダウンキャンペーンが実施さ
れ、大きな成果を上げている。

〈平成15年8月20日号・平成16年4月5日号・
平成20年4月20日号・平成20年6月20日号・
平成20年7月5日号〉

☑環境基本計画・環境基本条例 ラ
イトダウンキャンペーン

地区計画制度

一定の地区内において、建物の用
途・形態の制限、道路・公園の位置
や規模等を地区独自のルールとして
定める都市計画制度の一つ。地区レ
ベルでの良好な住環境の形成・保全
を目的としたもの。地区計画は、土
地利用の制限を伴うことから区域内
権利者の合意形成が必要となる。

市では、1995（平成7）年に松原
団地駅西口地区、新田西部地区の2
地区を定めたほか、2006（平成18）
年には市街化調整区域から市街化区
域へ編入した稲荷一丁目の一部地区
を新たに指定している。

〈平成18年4月20日号〉

地区まちづくりの 支援

市では、地域独自にまちづくり活
動を進める団体の支援に力を入れて
いる。みんなでまちづくり自治基本
条例に基づき、まちづくりの企画・
検討から情報発信、将来像を考えた
計画づくりとその実現までを、協働
により進めている。現在、公募によ
り申し出のあった9地区（瀬崎地区、
高砂住吉中央地区、遊馬地区、新善
地区、新里地区、四・五・六丁目地
区、稲荷地区、松原団地地区、草加
東部地区）に対して、アドバイザー
を派遣したり、活動費の助成を行う
などの支援をしている。

☑パートナーシップまちづくり み
んなでまちづくり自治基本条例

治水事業

かつて水害に悩まされた草加市だ
が、地道な治水事業の継続が実を結
び、近年は大雨等の際の被害が激減
している。主な水害対策としては、
河川改修、排水ポンプ設置、地下貯
留槽建設、調整池建設、治水緑地の
整備などがある。2008（平成20）年
8月現在で、稼働している排水機場

が16か所、地下貯留施設が8か所（2
万8640m³）、学校の校庭や公共施設
の駐車場等を利用して造られた貯留
施設が38か所（5万9912m³）、古
瀬川の旧河川敷を利用した貯留施設
（2221m³）がある。

〈建設部の概要・平成7年11月20日号・平
成8年7月5日号〉

☑激特事業 総合治水 総合排水計
画 地下貯留槽 排水機場



地名由来

当地が初めて文献に登場したのは
『吾妻鏡』で、鎌倉時代の1221（承
久3）年、鎌倉鶴岡八幡宮に「矢古
宇郷」という荘園が50町余寄進され
たと記されている。

「草加」という地名は、『草加宿
由来』に「二代將軍徳川秀忠が鷹狩
りを大原村（八潮市）で行い、舎人
（足立区）の御殿で宿泊すること
となったが、大原と舎人の間には草野
が広がり沼もあって人馬が進みにく
かったため、大川図書に道の補修を
命ぜられた。図書は領民を集め茅を
刈り、柳を切って埋め新道をその日
のうちに造ったところ、秀忠から
“これは草の大功である。これからは
ここを草加と名付けよ”と上意があ
ったので、以後草加と命名した」と
いう記述がある。「草の功」が草
加の由来というわけである。この地
が、綾瀬川、毛長川などにより形成
された低湿地だったことを裏付ける

一説とされている。

しかし、地名学会では、この地が
綾瀬右岸の砂地に発達した土地であ
り、砂地を意味する「ソガ」が草加
となったという説が有力である。

次に市南部の「谷塚」は、低湿地
の塚、八つの墳墓、休塚＝祭壇など
の説があるが、低湿地の塚が通説と
なっている。この地域に初めて住ん
だ人々の間では恐らく、「ヤチ」ま
たは「ヤツ」の処という意味でヤチ
カまたはヤツカ（谷処）と呼んだも
のと考えられる。それがいつのこ
ろから塚が造られ、谷処がヤツ（谷）
にある塚ということで谷塚となった
ものと推測されている。

草加市域にはかつて、○○新田と
称された村々が12か村あった。新田
は近世開発の典型的集落名で、地名
としては一般的なもの。新田開発と
は未開墾の地を耕地化することで、
江戸前・中期のころが最も盛んだっ
た。大消費地江戸に近い地域は物資
供給地として開発が進められ、元禄
期（1688～1704）までに武蔵国（現
在の埼玉県、東京都のほぼ全体と神
奈川県の一部）全体で約400の新田
が生まれ、大部分は現在の埼玉県内
にあった。

市内には「川柳」という旧地名を
冠した公共施設が散見される。川柳
は、1956（昭和31）年8月1日に草加
町と合併するまでは南埼玉郡川柳村
と称していた。草加町とは綾瀬川
を境に行政区を異にしていた。その
村名は、柿木村のカ、伊原村のハ、
南青柳村のヤ、麦塚村のギをそれぞ
れ一字ずつ採ってカハヤギ（川柳）
村と称したもので、カハヤナギでは
なく、カハヤギ（カワヤギ）が正し
い名称だった。地名としての川柳は
草加市と越谷市に分離してしまった
ために残念ながら残されてはいない。

〈昭和62年2月5日号・昭和62年3月5日号・
昭和62年5月5日号・昭和62年6月5日号・さ
いたまの地名（埼玉ふるさとシリーズ4）〉

☑川柳村 新田村 草加 谷塚町

茶屋通り

旧日光街道の草加松原最北端より
越谷市蒲生までの綾瀬川右岸沿いの
通りの名称。旭町一丁目付近にあっ
たもので、かつては街道を往来する
人々も多く、対岸にある藤助河岸に
集まる船頭を相手に商いをする店、
舟の荷を扱う店などが立ち並び、た
いへんにぎわっていた。草加側が出
茶屋、蒲生側が下茶屋と呼ばれた。
長い間、藤助河岸の遺構、通り沿い
の石仏などが残されていたが、綾瀬
川の拡幅工事などにより往時の面影
は失われつつある。

〈平成2年6月20日号〉

☑旭町 綾瀬川 河岸 草加松原
日光街道

中央

市の南部に位置する地名。現町名
は、1966（昭和41）年4月1日の住居
表示実施によるもので、その際に一
丁目と二丁目に分けられた。それま
での東町と高砂町の各一部からな
っている。東町は、1931（昭和6）年5
月の町名改正の際に付けられたもの。
旧草加町の一部が東町裏（草加
町大字谷古宇、南草加、弥惣右衛門
新田、吉笹原の各小字名）と呼ばれ
ていたところから東の一字を採って

東町とした。町内には、江戸時代か
ら下総国葛飾郡に通じていた葛西道
と呼ばれた道が通っている。

〈平成元年12月5日号〉

☑住居等表示整備事業 高砂

中央公民館

市最大の社会教育施設。1966（昭
和41）年9月に、市役所の移転にと
もなない旧役所の第1分室（会議室）
を改装し、市内初の公民館である中
央公民館として開館したが、老朽化
に伴い、1981（昭和56）年10月に住
吉二丁目へ新築移転した。

新築された中央公民館は、鉄筋コ
ンクリート（一部鉄骨）造の3階建
で、延べ床面積4497.91m²。総工
事費9億3800万円。市民ギャラリー、
大ホール、会議室、体育室、クラブ
室、保育室、和室、図書室などがある。
コンサート、演劇、講演会、発表
会など芸術・文化・学習の場として
利用されている。秋には「中央公
民館まつり」などの催しも開かれて
いる。

〈昭和41年7月10日号・昭和55年5月20日
号・昭和55年12月5日号・「昭和56年10月
22日中央公民館落成記念臨時号」〉

〔所在地〕住吉2-9-1

〔電話〕922-5344

☑公民館

